

# IT人材の育成を

## 社会福祉法人がプログラミング研修

大田市仁摩

大田市仁摩町の社会福祉法人仁摩福祉会(以下、同法)は23日から3日間、職員を対象にプログラミング研修を行った。IT人材の確保が難しいことから、職員がプログラミングを学ぶ業務の省人化と効率化をすめ、サービスを向上させるのが目的。同法が運営する施設は利用者が約60人。今回は約60人の職員が研修受講した。



研修を受ける様子

知識向上の契機となったと話した。

同法人は朝礼のオンライン化や、ハンドから車椅子への移動を支援する「介護ロボット」・心拍・呼吸なら

をパソコンで確認でき、異常を警告する「ロボットベッドシート」などを3年ほど前から採用。導入後、職員全体の有給取得率が7割を超え、残業時間が月平均1時間程度になったという。

しおさの野際篤紀施設課長(46)は「数字を読み、分析ができる人が利用者にとって価値ある存在になっていく」と話していた。

学習したのは、企業の定型業務に広く使われている表計算などのソフトウェアを自動化するマイクロソフト社の「VBA」。講習はプログラミング指導を業務展開するアックアイエス(本社・東京)の講師がインターネットで指導し、研修会場の同社講師が受講者の質問に対応するなど手助けする形で行われた。

受講者は講習会場のスクリーンと自分のコンピュータの画面を見比べたり、質問したりしながら講義の作成業務のプログラムを作成した。

研修を受講したしおさの事務局長の白枝敏子さんは「この研修をプログラミングの